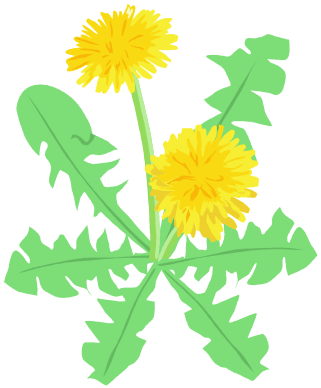


「認知症」になっても
安心して暮らせるマンション

中銀インテグレーション　株式会社
管理業務部　久保田　雅子

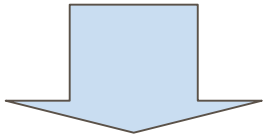
「認知症」と「管理会社」？！

- （社）高層住宅管理業協会での講習を受講

  講師の先生の言葉

  「認知症は誰にでも起こりうる病気」

  「認知症の方自身に自覚がある」



無意識のうちに
間違った対応をしていないか！？

今　私達のマンションで
起こっている事・起こる可能性がある事

① ゴミの分別が出来ない
② 自分の部屋がわからない
③ 突然大声を出して叫ぶ
④ 管理員に電話をして買い物を頼む
⑤ 漏水・火災の要因の発生
⑥ 遠方に住んでいる身内の連絡先がわからない
⑦ 高齢者の独居の増加
⑧ 管理員・フロントマン・組合員の知識不足

私達「管理会社」に出来ること

お金ではなく「心」をつかった対応を
管理会社が実行し組合にも理解を広める

対応例

① 相手が叱責されたと感ずる対応をしない
② ゴミの分別等の張り紙は絵で表示
③ 結論は先、説明は後
④ ゆっくり話す、優しく話す
⑤ 支援センターの連絡先を管理室に表示

「認知症を理解する講習」を開催

- 管理物件の管理員・フロントマン・社員（約100名）を対象

講習後の反応・今後の課題

① 居住者の身になって考えていくことの大切さ

② 地域包括支援センターを知ろう

③ お客様のプライバシーの尊重

④負担にならない程度の出来る事から始めよう

アンケートの結果

- 「認知症」になった本人に自覚があるとは思わなかった
- 今後の生活設計に講習の知識を身につけたい
- アルコールが原因で認知症になる
  例があると思わなかった
- 周りに介護している人がいるので、声をかけてあげたい
- もっと早く受講したかった
- 怖い
- 認知症に対するイメージが変わった

すべては人の心に発し、
人の心に終わる